



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月14日

上場会社名 株式会社 ピエトロ
コード番号 2818 URL <https://www.pietro.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 泰行
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 池田 章朗
四半期報告書提出予定日 2024年2月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 092-724-4927

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	7,606	9.8	209		192		101	
2023年3月期第3四半期	6,927	6.3	78		77		127	

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 119百万円 (%) 2023年3月期第3四半期 77百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	16.54	
2023年3月期第3四半期	21.02	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	10,740	6,247	58.2	921.35
2023年3月期	8,832	5,057	57.3	834.57

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 6,247百万円 2023年3月期 5,057百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		24.00	24.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,170	11.7	250		242		120		19.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	6,957,230 株	2023年3月期	6,257,230 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	176,195 株	2023年3月期	196,658 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	6,140,804 株	2023年3月期3Q	6,050,448 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日)におけるわが国経済は、コロナ禍の終息に向けた動きが加速し、緩やかな景気回復傾向にありましたが、物価高や世界的な金融引き締め政策の影響による経済の減速、円安の長期化等、先行き不透明な状況が続いております。

食品業界では原材料費の高騰等に伴う様々な商品の値上げ拡大による影響が大きく、節約志向が一段と強まりました。一方、外食業界におきましては、行動制限も緩和され回復傾向ではありますが、原材料やエネルギー価格の上昇、労働力不足による人件費上昇等、依然として経営環境は厳しいものとなっています。

このような状況のもと、当社グループは、商品、レストラン、ショップを通して「おいしさと健康」をお客様に提供し、ファンを基盤にした経営、マーケティングの強化、商品の強みを活かした価値訴求のさらなる追求を行ってまいりました。

商品事業では、お客様に寄り添った提案力の強化やブランドの強みを活かした営業改革に取り組んだことに加え、前期に行った価格改定が奏功し、増収となりました。店舗事業では、顧客満足度を追求した施策や新規出店効果により大幅な増収となり、当第3四半期連結累計期間の売上高は、グループ全体で76億6百万円(前年同期比9.8%増)となりました。

利益面では、商品事業において原材料や資材価格等の高騰影響はあったものの、価格改定の効果があったことに加え、店舗事業が利益構造改革により再黒字化を達成したこと等により営業利益は2億9百万円(前年同期は78百万円の損失)、経常利益は1億92百万円(前年同期は77百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億1百万円(前年同期は1億27百万円の損失)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

なお、前連結会計年度末より報告セグメントの変更を行っており、従来「食品事業」「レストラン事業」としていた報告セグメントの名称を「商品事業」「店舗事業」に変更しております。また、従来「食品事業」に含めていた「直販事業」は、変更後のセグメント区分において「店舗事業」に含めております。前年同期比較・分析については、変更後のセグメント区分に基づいております。

①商品事業

・ドレッシングカテゴリー

収益基盤のドレッシングカテゴリーでは、定番商品の「ピエトロドレッシング 和風しょうゆ」と健康志向にこだわるカロリー、油分カットの「ピエトロドレッシング グリーン和風しょうゆ」に改めて重点を置き、未開拓エリアへの販路拡大や、さらなるリピーター創出のためのマーケティング強化を図りました。「野菜嫌いをナオソ。」をスローガンに掲げた『100万人へおいしさを届けるプロジェクト』を発足し、「ピエトロドレッシング 和風しょうゆ」の使い切りサイズサンプリングを通じて、これまで商品をご存じなかったお客様とのコミュニケーションを図る施策を始動し、野菜嫌いの克服をお手伝いする活動をさらに積極的に進めました。また、春夏限定商品の「ピエトロドレッシング うめ」や9月にリニューアルした「ピエトロドレッシング 焙煎香りごま」の販売が好調に推移しました。前期に行った価格改定の効果もあり、ドレッシングカテゴリーは前期を上回る販売額となりました。

・パスタカテゴリー

第2の柱であるパスタカテゴリーでは、ボトル入りパスタソース「おうちパスタシリーズ」4種の個食パックアソートセットの販売等で、さらなる認知度向上、新たな需要拡大を行うとともに、主力のごま醤油ガーリック、ペペロンチーノ、バジルを中心に定番化を推進し、配荷を拡大してまいりました。

また、レトルトパスタソース「洋麺屋ピエトロ」は“レストランの味をご家庭で”の強みを活かした提案や映画とのタイアップキャンペーンを行う等のプロモーション強化を行った結果、なす辛、絶望スパゲティが好調に推移いたしました。

プレミアムパスタ麺「AGNESI」は“ピエトロレストランで使用するプレミアムパスタ麺”として認知拡大を図ったことにより、家庭用、業務用ともに前年同期を大きく上回る販売額となりました。

しかしながら、新型コロナウイルス自宅療養者向け商品供給の反動が影響し、パスタカテゴリー全体での販売額は前期を下回る結果となりました。

・冷凍商品カテゴリー

成長事業である冷凍商品カテゴリーでは、プレミアム冷凍商品として、レストランクオリティの味が家庭で簡単に楽しめる点を強みとし、冷凍パスタを中心にピザ、ドリア、グラタン等の拡販強化を行ってまいりました。またレトルトパスタソースで人気の味わいを冷凍商品にした「〔冷凍パスタ〕洋麺屋ピエトロ お肉好きのあなたのためのボロネーゼ」をはじめ、冷凍グラタンや冷凍ピザ等のリニューアル商品を発売し、配荷拡大に結びました。

特に量販店向けの「洋麺屋ピエトロシリーズ(冷凍パスタ)」やセット品が好調に推移し、前年同期の販売額を上回りました。

・スープカテゴリー

素材や調理法にこだわった「PIETRO A DAY」ブランドとして育成中のスープカテゴリーは、通信販売をはじめ、店舗事業セグメントでもある直販店、レストラン店頭の商品として、販売を順調に伸ばしました。定番商品である「北海道産スイートコーンの甘みポタージュ」や「国産じゃがいものヴィシソワーズ」が好調に推移するとともに、冬季限定商品「ボストン風 白いクラムチャウダー」もご好評をいただいております、順調に販売額を伸ばしました。

・その他カテゴリー

フライドオニオン「PATFUTTE (パットフッテ)」シリーズは、レストランのテーブルで自由にお試しいただける“テーブルマーケティング”により、レストラン店頭物販で好調が続く実績を基に量販店向けの配荷拡大に取り組んだ結果、流通商品としても順調に販売額を伸ばしました。

さらに通信販売では、自社ECサイトを、よりお客様が魅力的に感じていただけるようリニューアルを行うとともに、大手ECモールへの新規出店等も積極的に行い、特に冷凍商品・スープの両カテゴリーを中心にEC販売の強化を行ってまいりました。

その他、発売から42年の主力商品「ピエトロドレッシング 和風しょうゆ」が、2023年5月初めに累計出荷本数3億本を達成したことを記念し、これまでの感謝を込め、お客様の願いを叶える「ありがとうチャレンジ」企画として、工場見学や出張レストラン、セレクトショップ「BEAMS」とのコラボ商品8アイテムを発売する等、様々な感謝イベントを実施しました。

利益面では、主原料価格の高騰の影響があったものの、価格改定の効果や製造原価低減に努めた結果、セグメント売上高は46億57百万円（前年同期比3.0%増）、セグメント利益は12億96百万円（前年同期比7.8%増）の増収増益となりました。

②店舗事業

・レストラン店舗

レストラン店舗では、味、雰囲気、サービスの総合点を磨き、顧客満足度向上を図ってまいりました。おいしさをさらに追求した高付加価値メニューや季節のフルーツを贅沢に使用したデザートを提供、ディナーメニューや季節・期間限定の特別メニューを提供する等メニュー強化を行うとともに、より質の高いサービスを追求するためのスタッフ研修のさらなる強化等の施策を行ったことにより、既存店の顧客単価、来客数ともに上昇いたしました。物販強化策としては、テイクアウトメニューの拡充、デリバリーへの対応、レストランでのテーブルマーケティング等に引き続き取り組んでまいりました。また商品事業とのシナジーが期待できる未出店エリアへの出店を積極的に行いました。これらの結果、レストラン店舗の販売額は前年同期を大きく上回りました。

・直販店舗

スープカテゴリーでもあるPIETRO A DAY ブランド等の直販店舗では、スープの試食や、カフェメニューを通じて、商品の美味しさをお客様に直接伝えるマーケティングや期間限定のPOP UP 店舗の出店も継続的に行いました。また季節やイベントに応じたギフト提案を行う等、認知拡大を図ったことにより、流通やオンラインでの販売にも繋げることができました。

また、当社の全商品シリーズが揃う初のオフィシャルストアを名古屋に新規出店いたしました。より商品の魅力や価値が伝わるような商品ディスプレイの強化を図り、お客様に手にとっていただきやすい売り場づくりを行ってまいりました。

店舗の新規出店につきましては以下のとおりです。

出店時期	店舗名
2023年4月	ピエトロ イオンモール新潟南店
2023年4月	ピエトロ イオンモール札幌発寒店
2023年5月	ピエトロ 東京ドームシティ ラクーア店
2023年6月	PIETRO MIOMIO 福岡大名ガーデンシティ店
2023年8月	ピエトロ OFFICIAL STORE 名古屋ラシック店
2023年12月	ピエトロ イオンモール浜松市野店

利益面におきましては、レストラン店舗の売上が好調だったことに加え、原材料や諸費用の価格上昇に伴うメニューの見直しや価格改定の効果、人員配置の効率化等に取り組んでまいりました。

以上の結果、セグメント売上高は28億25百万円（前年同期比23.5%増）、セグメント利益は33百万円（前年同期は1億27百万円の損失）と増収増益となり、再黒字化を達成いたしました。

③その他（本社ビル等の賃貸）事業

その他（本社ビル等の賃貸）事業におきましては、売上高は1億24百万円（前年同期比4.8%増）、セグメント利益は53百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ19億8百万円増加し、107億40百万円となりました。これは主に新株発行による増資等により現金及び預金が13億50百万円、売掛金が3億71百万円、有形固定資産が2億30千円増加する一方、保険積立金が82百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ7億18百万円増加し、44億92百万円となりました。これは未払金が3億16百万円、短期借入金が2億円、買掛金が1億85百万円、未払法人税等が99百万円それぞれ増加する一方、長期借入金(1年内含む)が83百万円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末に比べ11億89百万円増加し、62億47百万円となりました。これは新株発行による増資11億78百万円と譲渡制限付株式報酬制度導入に伴う自己株式の処分35百万円並びに為替換算調整勘定が15百万円増加した一方、前期決算の剰余金の配当1億45百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益1億1百万円の計上によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,313,810	2,663,838
預け金	45,864	86,171
売掛金	1,323,877	1,695,392
商品及び製品	166,059	198,689
仕掛品	12,638	15,509
原材料及び貯蔵品	140,360	164,949
その他	137,525	114,307
貸倒引当金	△19	△35
流動資産合計	3,140,117	4,938,822
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,228,029	2,470,057
土地	1,979,201	1,979,201
その他(純額)	680,381	668,468
有形固定資産合計	4,887,612	5,117,726
無形固定資産	88,321	62,922
投資その他の資産		
敷金及び保証金	413,190	424,616
保険積立金	82,188	—
その他	240,004	215,590
貸倒引当金	△19,392	△19,302
投資その他の資産合計	715,991	620,904
固定資産合計	5,691,925	5,801,553
資産合計	8,832,042	10,740,375

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	530,489	716,024
短期借入金	1,350,000	1,550,000
1年内返済予定の長期借入金	113,333	120,000
未払金	506,451	823,169
未払法人税等	20,530	119,770
契約負債	48,337	24,132
賞与引当金	70,456	36,615
その他	373,106	387,880
流動負債合計	3,012,703	3,777,593
固定負債		
長期借入金	143,334	53,334
リース債務	80,462	61,490
長期未払金	156,925	156,925
退職給付に係る負債	163,457	169,335
資産除去債務	113,639	163,411
その他	103,532	110,550
固定負債合計	761,351	715,046
負債合計	3,774,055	4,492,640
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,042,389	1,631,527
資本剰余金	1,078,422	1,669,503
利益剰余金	3,238,885	3,195,023
自己株式	△336,898	△301,845
株主資本合計	5,022,798	6,194,208
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	814	3,231
為替換算調整勘定	34,373	50,295
その他の包括利益累計額合計	35,188	53,526
非支配株主持分	—	0
純資産合計	5,057,987	6,247,735
負債純資産合計	8,832,042	10,740,375

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	6,927,770	7,606,502
売上原価	3,405,301	3,612,509
売上総利益	3,522,468	3,993,992
販売費及び一般管理費	3,600,969	3,784,904
営業利益又は営業損失(△)	△78,501	209,088
営業外収益		
受取利息	228	208
受取配当金	240	348
為替差益	4,270	—
その他	3,382	2,345
営業外収益合計	8,121	2,902
営業外費用		
支払利息	5,295	5,679
シンジケートローン手数料	1,892	1,664
新株発行費	—	11,574
為替差損	—	63
その他	269	28
営業外費用合計	7,457	19,010
経常利益又は経常損失(△)	△77,838	192,981
特別利益		
固定資産売却益	3,798	—
保険解約返戻金	7,413	66,924
受取保険金	10,440	—
特別利益合計	21,653	66,924
特別損失		
固定資産除却損	216	601
固定資産売却損	—	310
固定資産圧縮損	7,178	—
減損損失	61,596	—
投資有価証券評価損	—	7,853
特別損失合計	68,991	8,765
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△125,176	251,139
法人税、住民税及び事業税	30,891	120,284
過年度法人税等戻入額	△20,625	△3,863
法人税等調整額	△8,255	33,136
法人税等合計	2,010	149,557
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△127,187	101,581
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△9
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△127,187	101,591

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△127,187	101,581
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,263	2,416
為替換算調整勘定	48,777	15,921
その他の包括利益合計	50,040	18,338
四半期包括利益	△77,146	119,920
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△77,146	119,929
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年12月27日を払込期日とする公募による新株式の発行を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本金が589,137千円、資本準備金が589,137千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,631,527千円、資本剰余金が1,669,503千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	4,522,041	2,287,095	2,046	6,811,183	—	6,811,183
その他の収益	—	—	116,586	116,586	—	116,586
(1) 外部顧客への売上高	4,522,041	2,287,095	118,632	6,927,770	—	6,927,770
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,522,041	2,287,095	118,632	6,927,770	—	6,927,770
セグメント利益 又は損失(△)	1,203,053	△127,410	51,649	1,127,292	△1,205,794	△78,501

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,205,794千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「店舗事業」において、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては61,596千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	商品事業	店舗事業	その他 (本社ビル等の 賃貸)事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	4,657,053	2,825,107	—	7,482,160	—	7,482,160
その他の収益	—	—	124,341	124,341	—	124,341
(1) 外部顧客への売上高	4,657,053	2,825,107	124,341	7,606,502	—	7,606,502
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,657,053	2,825,107	124,341	7,606,502	—	7,606,502
セグメント利益	1,296,842	33,102	53,695	1,383,640	△1,174,551	209,088

(注) 1 セグメント利益の調整額に含めた各セグメントに配賦できない金額は1,174,551千円であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する情報

前連結会計年度末において、従来「食品事業」「レストラン事業」としていた報告セグメントの名称を「商品事業」「店舗事業」に変更しております。また、従来「食品事業」に含めていた「直販事業」は、変更後のセグメント区分において「店舗事業」に含めております。この変更は、中期的な事業戦略に基づき、2023年3月に実施した組織改正に伴うものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間の「セグメント情報」については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。